

Br. Holdings Report



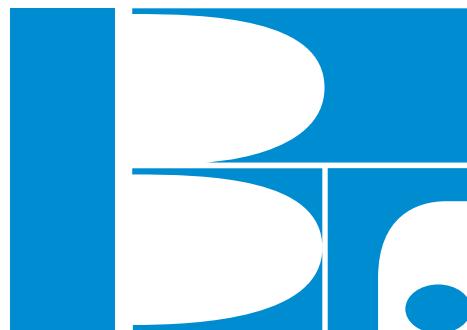
第14期 中間報告書

平成27年4月1日～平成27年9月30日



株式会社 ビーアールホールディングス

証券コード：1726



「人と人」「技術と技術」の橋渡し

ビーアールホールディングスグループは、

異なる事業特性・成長ステージを擁するグループ企業で構成された企業群を目指します。

そのグループ全体をまとめ、企業価値の最大化に努め、

資本効率のさらなる向上を目指すのが、

ホールディング・カンパニーとしての当社の役割です。

欧州統一通貨ユーロ紙幣の裏面は、全てのコミュニケーションを象徴する

橋のイメージのデザインで統一されています。

株式会社ビーアールホールディングスの経営理念も同じです。

これからも「人と人」「技術と技術」の橋渡しをすることに取り組んでまいります。

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、有難く厚く御礼申し上げます。

さて、当社第14期の第2四半期連結累計期間の決算(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)が終了しましたので、当社グループの業績及び事業活動の概況をとりまとめご報告させていただきます。

当社グループの第14期上半期の業績は、受注高が12,446百万円と前年同期(7,471百万円)から66.6%増加し、上半期受注の過去最高額を更新することができました。当期期首手持工事が16,968百万円と前年同期(17,809百万円)から4.7%減少しましたが、当上半期の受注で手持ち工事は順調に増加しております。しかしながら、この受注増加は主に来期の業績に影響を与えるため、当上半期の売上高は、8,152百万円と前年同期から逆に2.5%減少し、前期は上場後初めて上半期で純利益を計上することができましたが、当上半期の純損失は345百万円と前年同期(純利益29百万円)から悪化し、再び赤字計上となりました。これは前期受注の相対的に粗利率が低い大型工事を中心に完了したためであります。また、現在の手持ち工事の進捗率は順調で、当上半期も災害ゼロを継続し、子会社の極東興和(株)は600万時間の無災害記録を日々更新しております。

当上半期のPC工事の発注実績が前年同期より19%ほど増加し、当社グループ受注高は66.6%と大幅に増加しましたが、業績への貢献は主に来期となるため、平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)は据え置きとさせていただきます。今中間配当も昨年度と同額の一株当たり2円とさせていただきます。(平成26年10月1日付で1株につき2株の株式分割を実施しております。)

(社)プレストレスト・コンクリート建設業協会発表のPC工事発注量は上半期で対前年同期比19%程度増加しておりますが、通期予測では、対前年同期比2.2%と微増であります。しかし、上半期の発注量に対し、下半期は例年通り約1.5倍の対上半期比53.7%増となっておりますので、当社グループも順調な上半期に続き、下半期も全力で受注に努力してまいります。

当社グループは長期的な人材育成に取り組んでおり、広島県のイノベーション人材育成事業補助金を交付していただき2名の職員を博士課程に派遣しております。また、長年にわたる各大学や研究機関との共同研究により、徐々にではありますが、需要の増加が見込まれるPC床板を含み、補修分野で成果をあげつつあります。今後とも「技術で社会へ貢献する」企業グループとして、弛まず努力を続けてまいりますので、株主様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

平成27年11月



代表取締役社長

藤田 公康

PROFILE

(株)ビーアールホールディングス
代表取締役社長 藤田 公康
(昭和25年9月9日生)

- 昭和49年 慶応義塾大学法学部
政治学科卒業
- 昭和51年 ハートフォード大学
経営学部修士課程卒業
(MBA)
- 昭和51年 大塚製薬(株)入社
企画課長
- 昭和56年 極東工業(株)(現極東興和(株))
入社 取締役社長室長
- 昭和60年 同社代表取締役社長
- 平成5年 同社代表取締役会長
- 平成14年 当社取締役
- 平成17年 当社代表取締役社長(現任)

<兼職>

- 昭和63年 (社)広島青年会議所 理事長
- 平成2年 (社)日本青年会議所 会頭

■ 各事業区分の主要な内容

1. 建設事業

橋りょう土木工事の設計・施工

2. 製品販売事業

コンクリート二次製品の販売

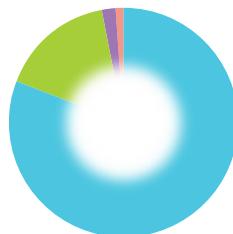
3. 情報システム事業

システム開発・販売

4. 不動産賃貸事業

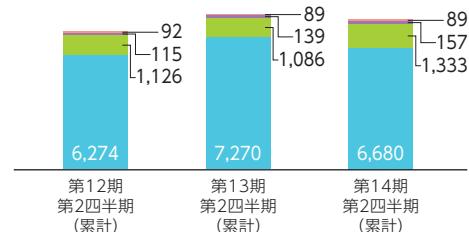
当社ビルのマンション賃貸運営等

■ 売上高構成比



■ 建設事業	80.9%	6,680百万円
■ 製品販売事業	16.1%	1,333百万円
■ 情報システム事業	1.9%	157百万円
■ 不動産賃貸事業	1.1%	89百万円

■ 売上高推移(百万円)



建設事業

売上高 **66億80**百万円

前年同期比
8.1%減



建設事業におきましては、高速道路会社を中心とした大型工事の受注が好調で、当第2四半期連結累計期間の受注高は107億44百万円(前年同期比84.9%増)となりましたが、前期から繰越した比較的採算性の低い大型工事の進捗により、売

上高は66億80百万円(前年同期比8.1%減)、セグメント利益は47百万円(前年同期比88.5%減)となりました。

製品販売事業

売上高 **13億33**百万円

前年同期比
22.8%増



製品販売事業におきましては、マクラギ及び耐震補強用建築部材等、主要顧客の需要が引き続き堅調に推移しており、当第2四半期連結累計期間の受注高は14億6百万円(前年同期比1.6%増)となりました。また、前期からの繰越製品の出荷が

進み売上高は13億33百万円(前年同期比22.8%増)、セグメント利益は57百万円(前年同期比146.3%増)となりました。

情報システム事業

売上高 **1億57**百万円

前年同期比
12.6%増



情報システム事業におきましては、アベノミクスの波及効果も現れてきておりますが、企業収益や設備投資の格差、都市部と地方の格差、円安によるコスト高、慢性的なSE(システムエンジニア)不足などまだら模様で不透明な状況にあります。当第2

四半期連結累計期間の売上高は1億57百万円(前年同期比12.6%増)、セグメント損失は16百万円(前年同期 セグメント損失17百万円)となりました。

不動産賃貸事業

売上高 **89**百万円

前年同期比
0.6%増



不動産賃貸事業におきましては、当社保有の極東ビルディングにおいて、事務所賃貸ならびに一般店舗・住宅の賃貸管理のほか、グループ会社の拠点として、当社が一括して賃借した事務所を各グループ会社に賃貸しており、安定した売上高

を計上しております。当第2四半期連結累計期間の売上高は89百万円(前年同期比0.6%増)、セグメント利益は55百万円(前年同期比5.2%増)となりました。

Topics
1

唄げんか大橋橋りょう補修工事（極東興和株式会社）

唄げんか大橋（うたげんかおおはし）は、大分県佐伯市宇目のダム湖百選に選定された北川ダムに架かる国道326号を構成する橋りょうです。平成5年7月開通し建設省（現国土交通省）直轄工事では日本初のPC斜張橋で、PC斜張橋として日本全国で7番目の長さを有します。「唄げんか大橋」というユニークな名前は、地元の民謡「宇目の唄げんか」にちなんで命名されたものです。今回、この橋の耐震補強工事を受注し落橋防止装置を設置し、メインケーブルや橋体コンクリートの補修を行いました。

Topics
2

鹿折大橋（東日本コンクリート株式会社）

鹿折大橋（ししおりおおはし）は、宮城県気仙沼市の主要地方道に架かる、橋長58mの2径間の鋼橋です。

完成が昭和38年と古いため、橋脚の基礎杭を含めた耐震補強工事として発注されました。

鹿折川下流の気仙沼市鹿折地区は、東日本大震災の大津波により壊滅的な被害を受け、鹿折川を遡上した津波は鹿折大橋付近でも堤防からあふれ、周辺を浸水させました。



本工事は復旧復興工事による地盤のかさ上げや、建物の建設が急ピッチで続けられる中での施工となりました。交通を解放させての施工であったため、第三者の安全を最優先し安全対策としてPC鋼棒による橋脚の仮固定を行いました。また、桁下空間の狭い条件での基礎杭の打込となるため、宮城県内では初のSTマイクロパイル工法での施工でしたが、同Br.HDグループである極東興和株式会社の協力も得て、発注者の要求事項を満足させ無事故で完了しました。

Topics
3

正伝寺橋補強工事（極東興和株式会社）

正伝寺橋（広島市安佐南区）は、一級河川太田川水系安川に架かる橋りょうです。安川流域においては、集中豪雨による氾濫を防止するため、護岸整備、川幅の拡幅、河床掘削などの河川改修が行われています。

今回、正伝寺橋周辺の河道整備工事（河床を下げて流下断面を拡大する）により不安定化する橋脚基礎の補強を行うために、杭基礎の増設が計画されましたが、橋桁から河床までの高さが低く、作業スペースも非常に狭いため高耐力マイクロパイルが採用されました。民家に近接した施工条件であり、防音対策に留意して施工を進めました。また、降雨による増水で施工ヤードの崩壊が生じた場合、長期間の施工中断に繋がることから、被害を最小限に抑える対策を講じながら、長さ9.3mの高耐力マイクロパイルを6本無事に施工しました。



Topics
4

小貝川新橋 (極東興和株式会社)

本橋は、茨城県筑西市のみならず県西地方の拠点都市を東西に結ぶ筑西幹線道路の一環として、大きな役割を担う橋りょうと位置づけられています。



当社は、小貝川に架かる橋長204mの3径間の橋りょうの内、中央から左岸側を施工しました。

濁水期内での施工という工程上の制約がありましたので、工程管理を確実にし、工期短縮に努め、工期内で工事を完成させることができました。また、河川や周辺環境に配慮し、環境に優しい施工を心がけました。

さらに、地域とのコミュニケーションを図るため現場見学会を開催したり、ホームページで現場の進捗状況を閲覧できる工夫を行い、発注者からは高い評価をいただきました。

Topics
5

和食川水門補修工事 (極東興和株式会社)

和食川水門(わじきがわすいもん)は、高知県安芸郡芸西村和食にある和食川の河口に位置する水門で高潮時の内水排除を目的として昭和56年より供用が開始された施設です。水門の出口は太平洋に面しており海水の影響を受けるため、近年、塩害によるコンクリートの劣化が顕著になりました。そこで、今回、防錆剤(亜硝酸リチウム)をコンクリートに浸透させるリハビリカプセル工法が採用され、当社が施工を行いました。本工法がこのような大規模な排水構造物に採用されたのは初めてです。

Topics
6

河内工区2号橋 (極東興和株式会社)

河内工区2号橋は、大分県玖珠郡九重町に架かる橋りょうで、歩道橋では日本一の「九重夢大吊橋」に向かうアクセス道として整備されました。

本工事は現地でも橋りょうを製作するポストテンション方式PC単純箱桁橋で、河川内にヤードを造成し、基礎・支保工を設置した後、上部工の施工を行いました。

濁水期内(平成26年11月～平成27年5月末)に、河川内での施工を完了させる必要があり、工程の進捗管理が最重要課題でした。

上部工を支える基礎杭施工と上部工施工を同時進行させるとともに、天候に左右されない全天候型の全面防護シートを設置することで、濁水期内に河川内の支保工基礎・ヤードの撤去まで完了させることができました。

施工方法を工夫し、工期内に無事故無災害で工事を完成し、発注者からは高い評価をいただきました。



CSR

環境との調和

自然環境の中に人工構造物を造るにあたり常に意識してきたのは「環境と調和」です。グループ企業におけるISO9001と14001の認証取得もその一環であり、現状に満足することなくさらに何ができるかを考え、行動に移してきました。社会に貢献できる企業として、目の前の利害にとらわれず、遠くを見据える長い視点で環境に関わっていきたいと思っています。



グリーン活動(植樹・植栽)



現場周辺地域の草刈り作業



幼稚園児による稚魚(鮎)の放流



子供たちの現場見学会

災害復旧

日本は地震、台風、洪水など自然災害の多い国ですが、そのたびに力強く復興を遂げてきました。社会資本に携わる企業として、まずは優れた品質で災害に負けない構造物を創り出し、万が一の時には持てる技術と資源を最大限に活かして復興に貢献することが使命だと考えます。



東日本大震災での復旧活動

連結財務諸表のポイント

■ 四半期連結貸借対照表のポイント

(単位：千円)

	当第2四半期末	前連結会計年度末
	平成27年9月30日現在	平成27年3月31日現在
流動資産	8,594,247	9,516,965
固定資産	4,203,087	4,113,541
有形固定資産	3,498,632	3,398,341
無形固定資産	97,381	74,260
投資その他の資産	607,073	640,939
資産合計	12,797,335	13,630,507
流動負債	9,317,933	9,418,996
固定負債	1,573,967	1,944,207
負債合計	10,891,900	11,363,204
純資産	1,905,434	2,267,302
負債・純資産合計	12,797,335	13,630,507

POINT

四半期連結貸借対照表

当第2四半期連結会計期間末の総資産は127億97百万円となり、前連結会計年度末比8億33百万円の減少となりました。その主な要因は、現金預金が6億32百万円、未成工事支出金が1億63百万円、商品及び製品が1億19百万円、有形固定資産が1億円増加したものの、受取手形・完成工事未収入金等が19億58百万円減少したことによるものであります。有利子負債は4億81百万円減少し、38億85百万円となりました。純資産は、親会社株主に帰属する四半期純損失3億45百万円の計上等より、前連結会計年度末比3億61百万円減少の19億5百万円となりました。

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

■ 四半期連結損益計算書のポイント

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間	前第2四半期累計期間
	平成27年4月1日～ 平成27年9月30日	平成26年4月1日～ 平成26年9月30日
売上高	8,152,205	8,364,788
売上原価	7,435,941	7,343,913
売上総利益	716,263	1,020,874
販売費及び一般管理費	1,027,937	925,283
営業利益又は営業損失(△)	△311,673	95,590
経常利益又は経常損失(△)	△326,432	73,183
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△345,055	29,240

- 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。
- 「企業結合に関する会計基準」等を適用し、当第2四半期連結累計期間より、「四半期純利益又は四半期純損失(△)」を「親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)」としており、前第2四半期累計期間についても科目名を統一しております。

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間	前第2四半期累計期間
	平成27年4月1日～ 平成27年9月30日	平成26年4月1日～ 平成26年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,263,126	701,453
投資活動によるキャッシュ・フロー	△114,109	△76,706
財務活動によるキャッシュ・フロー	△516,474	△377,667
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	1
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	632,541	247,080
現金及び現金同等物の期首残高	764,959	1,006,741
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,397,500	1,253,822

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

POINT

四半期連結損益計算書

売上高は81億52百万円(前年同期比2.5%減)、営業損失は3億11百万円(前年同期 営業利益95百万円)、経常損失は3億26百万円(前年同期 経常利益73百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は3億45百万円(前年同期 親会社株主に帰属する四半期純利益29百万円)となりました。

POINT

四半期連結 キャッシュ・フロー計算書

「現金及び現金同等物の四半期末残高」は、前連結会計年度末に比べ6億32百万円増加し、13億97百万円となりました。「営業活動によるキャッシュ・フロー」は12億63百万円の獲得(前年同期は7億1百万円の獲得)、「投資活動によるキャッシュ・フロー」は1億14百万円の使用(前年同期は76百万円の使用)、「財務活動によるキャッシュ・フロー」は5億16百万円の使用(前年同期は3億77百万円の使用)となりました。

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間	前第2四半期累計期間
	平成27年4月1日～ 平成27年9月30日	平成26年4月1日～ 平成26年9月30日
建設事業	10,744,626	5,810,287
製品販売事業	1,406,505	1,384,605
情報システム事業	205,983	187,711
不動産賃貸事業	89,861	89,365
合計	12,446,977	7,471,970

会社概要

Corporate Profile

■ 会社概要 (平成27年9月30日現在)

商号	株式会社 ビーアールホールディングス Br.Holdings Corporation
設立	平成14年9月27日
本社所在地	広島市東区光町二丁目6番31号
電話	082-261-2860(代表)
資本金	25億円
決算期	3月31日
従業員数	10名(連結463名)

■ 代表者及び役員 (平成27年9月30日現在)

代表取締役社長	藤 田 公 康
取締役	土 屋 英 治
取締役	多 賀 邦 行
取締役	山 根 隆 志
取締役	山 縣 修
監査等委員	藤 並 信 幸
監査等委員(社外)	小 田 清 和
監査等委員(社外)	佐 上 芳 春

■ グループの概況 (平成27年9月30日現在)

極東興和株式会社

本社所在地/広島市
事業内容/PC建造物の設計・施工
PC及びRC製品の設計・製造・販売等
コンクリート建造物の診断・補修・補強等

東日本コンクリート株式会社

本社所在地/仙台市
事業内容/PC建造物の設計・施工
PC及びRC製品の設計・製造・販売等
コンクリート建造物の診断・補修・補強等

キョクトウ高宮株式会社

本社所在地/広島市
事業内容/PC製品及びコンクリート二次製品の設計・製造・販売・施工等

ケイ・エヌ情報システム株式会社

本社所在地/広島市
事業内容/ソフトウェアの設計・開発及び販売等

豊工業株式会社

本社所在地/大分市
事業内容/PC及びコンクリート二次製品の製造・販売等



株式の状況 (平成27年9月30日現在)

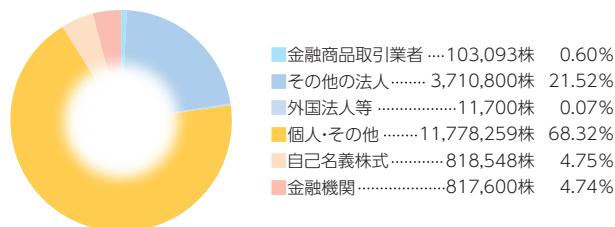
発行可能株式総数……………60,000,000株
 発行済株式の総数……………17,240,000株
 株主数……………9,507名

大株主 (上位11名)

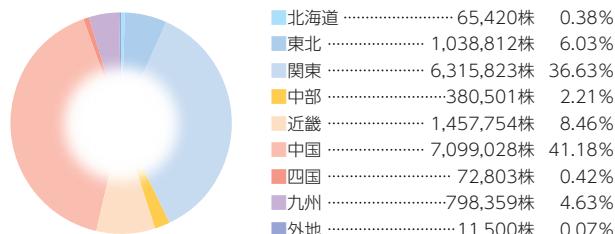
株主名	持株数	持株比率
トウショウ産業株式会社	2,400 (千株)	14.62 (%)
藤田公康	1,347	8.21
ビーアールグループ社員持株会	732	4.46
ビーアールグループ取引先持株会大阪支部	511	3.12
広成建設株式会社	494	3.01
長谷部正和	463	2.82
ビーアールグループ取引先持株会広島支部	458	2.79
株式会社三菱東京UFJ銀行	400	2.44
藤田衛成	372	2.27
遠藤祐子	370	2.25
藤田雄山	370	2.25

(注)持株比率は自己株式(818千株)を控除して計算しております。

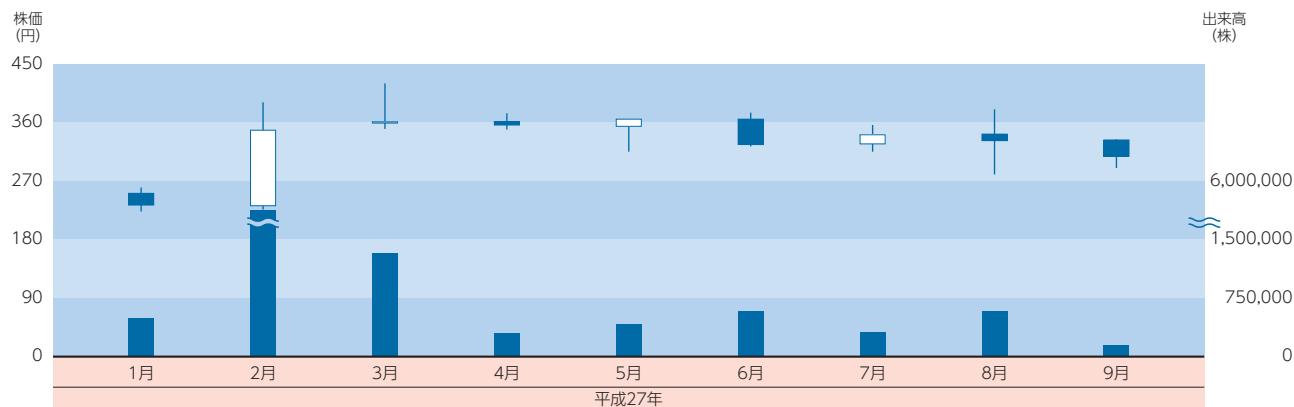
所有者別株式分布状況



地域別株式分布状況



株価の推移



■ 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う。 当社ホームページ (http://www.brhd.co.jp/koukoku/index.html)にて掲載。 (ただし、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。)

表紙写真について



湯川第一橋〈極東興和株式会社〉

湯川第一橋は、和歌山県新宮市を起点として整備が進められている那智勝浦道路の、那智勝浦町湯川に位置する橋長108mの橋りょうです。和歌山国体に向け開通を目指すとともに、観光や地域経済の活性化につながると期待された道路です。

本工事の施工条件は、橋りょうの両側をトンネル工事に挟まれ、さらに改良工事も近接して行われていました。

工事期間全体にわたり発注者や関連業者と工程調整を行い、国体までに無事完成することができました。また那智勝浦道路ウォーキング大会などイベントに積極的に協力し、地元の方とのコミュニケーションを図りながら施工を進めた結果、発注者からは施工管理を含め高い評価をいただきました。



株式会社 ビーアールホールディングス

広島市東区光町二丁目6番31号 TEL 082-261-2860 FAX 082-261-2861

ホームページ <http://www.brhd.co.jp/>

IR情報を当社ホームページに掲載いたしておりますので、こちらからもご覧ください。

